

STUDENTS VOICES [学生の声]

<p>三期生(学部)</p>  <p>横田 英博 4年生</p> <p>医薬研究の最先端からの刺激 CIPTでの英語ディベート演習は、科学的な内容を短時間で簡潔に述べるなど、いままでの英語学習から一歩踏み込んだ、より学術的な実りあるものでした。また、米国へ渡り最先端の研究所で働く人々の研究やその動機について直接尋ねることができたことも、医療分野での研究を続けたい自分にとっては励みになる出来事でした。CIPTで学んだことをもとにして、これからの医療者としてのキャリアでも日々研鑽を重ねていきたいと感じています。</p>	<p>三期生(学部)</p>  <p>松永 千尋 4年生</p> <p>トランスレーショナルリサーチとは 基礎研究を応用し導くまでの道のり・導き方をCIPTで学んできた。アカデミアだけでなく企業の戦略や特許のことなど、通常の医学部のカリキュラムではけっして知り得ない、想像を超える大きな世界を見ることができた。バックグラウンドが異なる人々とのディベート・いつも一緒にいる友人の研究への思い・英語での正しいプレゼンの仕方を学ぶ授業・海外での研修とその報告。挙げたらきりがなく、最初から最後まで刺激的だった。このドキドキした気持ちをずっと保っていききたい。</p>	<p>三期生(学部)</p>  <p>河野 健太 4年生</p> <p>基礎と臨床の架け橋となれる医療者を目指して 研究マインドを持った臨床医を目指している私にとって、CIPTのプログラムはまたとないチャンスでした。本プログラムを通じて、最先端の研究内容や研究環境について企業や研究所の方々と議論する機会をいただきました。志高い仲間に出会えた上に、研究に対するモチベーションを高めることができました。研修プログラムで学んだ英語でのディベートや議論の仕方・進め方を今後の学生生活だけでなく、医療者となった時にも十分に活かしていきたいと思っています。</p>	<p>三期生(学部)</p>  <p>杉田 明穂 4年生</p> <p>国際社会で通用する医療者を目指して CIPTへの参加は、国境を超える「創薬」を題材に、研究開発、企業活動、臨床応用の連携の現場に触れ、各国の制度や環境を学ぶ貴重な経験でした。米国での研修に向け、講義からディベートや英語のプレゼンまで、段階毎に力を付けていく実感が得られました。LGSの方々や他の参加学生からも、多くの刺激を受けました。今後も研鑽を重ね、治療学のマインドを持った Physician Scientist になることを目標にしています。</p>	<p>三期生(学部)</p>  <p>南 研人 4年生</p> <p>目標の医師像を目指して 医学部入学時から、将来は臨床医学と医学研究のどちらにも携わる医師になりたいと思っています。そんな私にとって、Translational Researchについて様々な観点から学ぶことが出来るCIPTの講義は非常に興味深いものでした。また、サンディエゴでの研修に参加し、現地の研究施設の現場を見学したことや研究者の方々や話が出来たことは素晴らしい経験となり、自分の中で新たな目標を見つけることも出来ました。CIPTを通じて得てきたことを糧に、これからも目標に向けて精進していきたいと思っています。</p>
<p>三期生(学部)</p>  <p>依田 夏美 4年生</p> <p>未だない治療を目指して 医療の進歩は著しいとはいえ、未だ十分な治療効果が得られない疾患は数多くあります。私はそんな既存の医療で未解決の問題に対し、新たな治療概念を作り出せるような医学研究者を目指しています。今回のCIPTプログラムにはインノベーションなど研究者に必要な素養を養いたいという思いで参加しました。サンディエゴ研修を通して現地の研究所や企業で医学が生まれていく現場を目にしたり、最先端の研究に従事する現地の研究者と話す機会を得られたりなどの貴重な経験は、これからの自分の大きな糧となると思います。</p>	<p>三期生(学部)</p>  <p>星 佳佑 4年生</p> <p>最前線を一步踏み越えるために 先端治療学の発表やディベート、CIPTの英語研修や海外研修を通じて、様々な視点やアイデアを濃密に学ぶことができました。San Diegoでは、多様なバックグラウンドの人が地域一丸となって協力的イノベーションを目指す様子が衝撃的でした。視野が広がるのと同時に、自分の未熟さや今後の課題も見えてきました。将来日本から世界を変えていくために、臨床にも研究にも積極的に取り組み、橋渡しをしてインノベーションを起こせる人材になれるよう精進していきます。</p>	<p>三期生(学部)</p>  <p>深澤 嘉樹 4年生</p> <p>基礎と臨床の間から トランスレーショナルリサーチについて実際に見学したいという思いからCIPTプログラムに参加しました。事前研修として、大学院生など異なるバックグラウンドの方々やディスカッションや英語プレゼンを行うことも本プログラムの魅力と感じています。そしてサンディエゴの研修ではトランスレーショナルリサーチについて見識を深めることができました。この貴重な経験を糧に、基礎と臨床の橋渡しを担える人材を目指して精進してまいります。</p>	<p>四期生(大学院)</p>  <p>LING LING 修士課程1年</p> <p>世界で活躍できる医師を目指して 今回のイノベーション医学プログラムに参加することで、今後の世界においてイノベーションを実現するためには、保健の分野だけではなく、他分野の共同協力が不可欠であることがわかった。様々なバックグラウンドを持っている学生が集まったこのプログラムに参加したことは、自分の研究分野以外の研究の世界を知るよい機会であった。今後の医療に貢献できる人材になれるよう努力していきたいと考えている。</p>	<p>四期生(大学院)</p>  <p>遠藤 将大 修士課程1年</p> <p>飽くなき人体への探究心 人体メカニズムの解明とは「無限に続く荒野」そのものである。まさに、私の研究している免疫は多くの疾患に通じているため、一つの視点からではその本質を理解することが極めて難しい。そこで、このCIPTでは自分と異なる分野を学ぶため、研究に対して多面的アプローチを行う上で大いに役立つ。CIPTで得た知識を元に、この「無限に続く荒野」に一筋の光を見出し、先代の築き上げてきたものをさらに飛躍させ、次世代への橋渡しができればと強く願っている。</p>
<p>四期生(大学院)</p>  <p>稲田 千秋 修士課程1年</p> <p>他分野の研究から学ぶこと 自分の研究室に閉じこもり、結果を出すことを目標として頑張っている時間も大切ですが、CIPTの授業では、他分野の研究を行っている人達や、医療の現場を目指して勉強している医学生と交流することで、今まで見えなかった観点からの考察や、他分野の研究を参考にすることができると気づく機会を得ることができたと感じています。ただ授業を受けるだけでなく、自分たちがディスカッションしたと考えたテーマについて、他分野の研究者の方たちや医学生と意見を交換し合いながらともに考え、自分たちの考えをまとめることができたととても良い時間だったと感じています。</p>	<p>四期生(大学院)</p>  <p>松尾 謙蔵 修士課程1年</p> <p>CIPTへの活動への感謝と将来について 私の考えるCIPTの最大の魅力は、多様なバックグラウンドを持つ方々と多岐にわたる医療の問題について話し合えたことです。これから医師や研究者はどのような役割があるのか、それには現状どのような問題があり、どのような解決策があるのか、自分なりに考えとても良い機会でした。この活動を通じて、研究というアプローチに限らず広く医療の抱える様々な問題を解決したいと思うようになりました。広い視野を与えてくださったこの活動に感謝いたします。</p>	<p>四期生(大学院)</p>  <p>藤井 匠子 修士課程1年</p> <p>CIPTの抱負 CIPTでは、医療に関わる様々な分野の先生方の話を聞くことができます。内容が最先端であるだけでなく、研究を進めてきた先生方の視点やモチベーションに触れることのできる貴重な機会になることを楽しみにしています。また、本プログラムでは医学部の学生や他分野の修士学生とディスカッションすることもできます。活発な意見交換をし、お互いに有意義な時間が過ごせるよう努めたいと思います。</p>	<p>四期生(大学院)</p>  <p>石井 絢菜 修士課程1年</p> <p>CIPTの活動を通して この一年間、CIPTの一員として様々な活動に参加してきました。トランスレーショナルリサーチに関する講義や、企業の方を招いたシンポジウムなど、学ぶ機会が多く、充実した一年となりました。これを生かすべく、研究者としてのスタート地点である今、幅広い視野と多くのバックグラウンドをかね備えて、自らの研究に励む人間になりたいと感じています。また、日々進化する科学に柔軟に対応できるような姿勢で、自分たちに求められることの一步先を歩んでいきたいと強く思っています。</p>	<p>三期生(大学院)</p>  <p>山下 泰生 博士課程2年</p> <p>CIPTの活動を通して変わったこと 私は、ゲノムやトランスクリプトームなどのあらゆる生体分子を用いて、正確な診断を確立する研究に従事しています。学部時代は情報学を専攻していたため、本学に入学した時は医学知識が乏しかったのです。しかし、本プログラムの科目では先端的な研究や医療技術、実験手法について多領域の先生や学生と意見交換したり、様々な研究機関等を見学できたため、幅広い分野の医学研究を知り、更に科学的な視点も培えました。本プログラムで得られた知識や考え方を研究の立や考察に活かしているため、論文等の成果に残っていきます。</p>

文部科学省選定「未来医療研究人材養成拠点形成事業」
「未来医療を担う治療学CHIBA人材養成」
「治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム」
~CHIBA INNOVATION PROGRAM FOR THERAPEUTICS~

NEWS LETTER

VOL.3
2017.12



お問い合わせ先
千葉大学大学院医学研究院・医学部
「治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラム」事務室
〒260-8670 千葉市中央区支鼻1-8-1
TEL:043-226-2825 E-mail:igaku-mirai@chiba-u.jp
URL:http://www.cipt-chiba-u.jp/



治療学CHIBAイノベーション人材養成プログラムとは？

千葉大学医学部の100年以上にわたる臨床医学推進の歴史。その伝統をもとに「治療学イノベーション」の視点で医学部から大学院までの一貫的教育システムを導入し、先見性と柔軟性、幅広い視点を有し、将来の医療イノベーションを担う人材の輩出を目的とする人材養成プログラムです。

医学部3年生全員がイノベーション医学教育を受け、4年～5年生の間にイノベーション基礎力をつけるためのゼミや実習に参加できます。医学部生と修士課程、博士課程の大学院生がともにゼミと実習に参加し、異なるバックグラウンドを持つ学生同士が切磋琢磨し合うことで知的融合の素地ができ、能力発展の基礎作りを目指します。さらに博士課程では、医学・薬学・工学部の先進的教員をはじめ、製薬企業や政府機関・海外の開発研究機関の客員教授も参画する特別演習・実習が行われます。

「治療学 CHIBA 産学連携イノベーションシンポジウム」の開催

平成29年12月1日(金)に医学部あのはな同窓会館にてシンポジウムを開催いたしました。企業からの客員教員3名と医学薬学府の教員による講演を行い、学生や教職員が多数出席いたしました。

プログラム学部生が司会を担当し、「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の補助事業最終年度の区切としての有意義なシンポジウムとなりました。

文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業
「テーマA：メディカル・イノベーション推進人材の養成」

治療学CHIBA産学連携 イノベーションシンポジウム

2017年12月1日(金) 入場無料
13:30~17:00
千葉大学安鼻キャンパス あのはな同窓会館
(千葉市中央区安鼻1-8-1)

13:00~ 受付開始
13:30~13:35 開会挨拶 中山俊憲 (医学研究院長、医学部長)
座長 | 本橋新一郎 (医学研究院教授)
13:35~14:10 「IVD(In Vitro Diagnostics)の進歩とヘルスケアの将来」
関信男 (シスメックス株式会社)
14:10~14:45 「再生医療の製品化を推進するコラボレーション力」
二井智子 (株式会社日本再生医療)
14:45~15:20 「特異体質薬物毒性の非臨床評価」
伊藤晃成 (薬学研究院教授)
15:20~15:40 休憩
座長 | 伊藤素行 (薬学研究院教授)
15:45~16:15 「低温大気圧プラズマを利用した低侵襲止血の開発」
池原謙 (医学研究院教授)
16:15~16:50 「クラシックな基本骨格でも、磨けば光るか？耐性菌への再挑戦」
味戸慶一 (Meiji Seika ファルマ株式会社)
16:50~17:00 閉会挨拶 斎藤哲一郎 (医学研究院教授)

●プログラム詳細
CIPTは全く新しい考えを導入し、千葉大独自の基礎医学と臨床医学を統合した治療学研究推進体制の上で実施しております。抜本的な体制を備え、将来の治療学を推進する人材を育成いたします。
<http://www.cipt-chiba-u.jp/>

お問い合わせ先
CHIBA UNIVERSITY
〒260-8602 千葉市中央区安鼻1-8-1
TEL: 043-226-2255
E-mail: igawa@entail.chiba-u.jp

CIPT
AT CHIBA UNIVERSITY



中山俊憲医学研究院長の開会挨拶



Meiji Seikaファルマ株式会社 味戸慶一先生の講演

PHOTO NEWS ～写真で見るCIPT～



「新入生ガイダンスの開催」

新たに選抜された、CIPT大学院四期生・医学部三期生へ向けたガイダンスが平成29年4月13日(木)に開催され、新入生、大学院一期生～三期生及び関係教職員が参加しました。開会の挨拶後、合格通知書の交付、自己紹介、CIPT教員紹介、コースワーク説明、在籍生による各種研修の発表が行われました。さらに、今後の活動についての打合せを在籍生と新入生で行うなど、プログラム参加の第一歩となりました。



「イノベーション治療学実習(海外研修)～アメリカ サンディエゴ～」

平成29年8月28日(月)～同年9月2日(土)にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにおいて海外研修を実施し、10名が参加しました。[Kyowa Kirin Pharmaceutical Research, Inc.][Tanabe Research Laboratories U.S.A., Inc.][Ajinomoto Althea, Inc.][Bio Legend]の4社と研究所を訪問し、新薬開発などのイノベーションの国際的現場を体験しました。



「イノベーション治療学実習(海外研修)～スイス ジュネーブ～」

平成29年9月24日(月)～同年9月29日(金)にスイスジュネーブにおいて海外研修を実施し、2名が参加しました。「世界保健機関」「グローバルファンド(世界エイズ・結核・マラリア対策基金)」「国際赤十字赤新月社連盟」「国際労働機関」「在ジュネーブ国際機関日本政府代表部」「国際連合ジュネーブ事務局」の6機関を訪問し、国際的に医療イノベーションを起こすことの難しさを学ぶと同時に、新たな目標の設定や自身のキャリアなどを再確認することができました。

「英語プレゼン・ディベート」

英語プレゼン・ディベート中級・初級は、平成29年7月20日(木)～7月31日(月)に全8回開講され、大学院三、四期生、医学部三期生が受講しました。英語のネイティブの専門家から少人数制で英語によるプレゼンテーション法を学び、講義後には学生主体の英語のディベートが行われ、学生同士の交流が図られました。

